

P o i n t

2020/8/31 No. 2

JR東労組青年部

(東日本旅客鉄道労働組合青年部)

発行責任者 武田 太希

JR東労組青年部 第36回定期委員会 委員会宣言

委員会宣言 (案)

JR東労組青年部は8月25日、第36回定期委員会を開催し、1年間の運動を振り返ると共に、青年部の未来を切り拓くための方針を満場一致で決定した。今定期委員会は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う仲間の不安の声を受けリモートでの開催となったが、多くの教訓的な発言で活気と一体感のある定期委員会となった。

前段に開催された「第35回臨時委員会」は、組織現実に踏まえ、青年部の存続と組織の再建に向けて部則の一部改正を確認した。JR東労組青年部は12地本青年部の新たな総団結を創り出すために、中央常任委員の選出方法を変更した。幅広い仲間の声をもとに、様々な組織現実を共有し、フレッシュな感性と創造的な運動づくりをもとに離脱を余儀なくされた仲間が再結集できる組織を創り出していく。

JR東労組青年部は2年間、12地本青年部総団結方針を掲げ、「18春闘大敗北総括」を一致させるために幾度となく議論を積み重ねてきた。しかし、東京や八王子の委員の発言にもあったように、現実に目を背けた者たちは「嘘とごまかし」で多くの仲間を引きずり回し、挙句の果てには、JR東労組からの脱退と分裂組織への加入を迫った。これらの行為は、無責任極まりないものであり組織破壊以外の何物でもない。JR東労組青年部は、誰一人として青年部員を置き去りにしない。苦しみながらもJR東労組に留まることを決意した水戸・東京・八王子・バスの仲間たちに寄り添い共に歩んでいく。

JR東日本会社が7月30日に発表した第1四半期単体決算は新型コロナウイルス感染症に伴い、営業利益、経常利益、四半期純利益、全てにおいて純損失を計上する極めて厳しいものとなった。また、新しい生活様式が提言され、テレワークの推進など働き方改革でめざされていた労働環境の変化が急速に進んでいる。変革2027に基づく「業務改革・働き方改革・職場改革」がスピード感を増して推進され、「休業指示に係る就業規則等の改正について」など私たちの雇用と生活に関わる問題に直面している。私たちはその現実を主体的に受け止め、自らの雇用を守るために積極的に議論を創り出していく。

また、施策については正面から向き合い、組織強化・拡大の取り組みを推し進めるために「系統別意見交換会」を開催してきた。各地の職場現実や組織強化・拡大の実践を共有し、共に悩み学び合うことを通じて、お互いを高め合い仲間の繋がりを深めてきた。各地方においても、自らの課題を乗り越えながら、離脱者の再加入をかちとった実践や、仲間が集まる場を創り出してきた発言があった。これらの成果を青年部全体の教訓として、さらに力強く組織強化・拡大の取り組みを推し進めていく。

今定期委員会は、JR東労組青年部にとって再スタートを切る大きな転換点となった。18春闘大敗北の反省に立ち、方針の押し付けではなく、青年部員の声をもとに、誰もが担え高め合える運動づくりを根底に据え、各地方の仲間と共に展開してきた。そして、培った団結力によって組織破壊に屈することなく組織を存続させることができた。

今定期委員会で確立した新体制は、この2年間のたたかひの到達点である。新型コロナウイルス感染症拡大による社会様式の変化や「労働者代表制」の法制化など取り巻く情勢は厳しさを増しているが、JR東労組青年部はいかなる状況においても現実を乗り越える気概を持ち、前を向き続ける。組織の存亡をかけああらゆる取り組みを組織強化・拡大につなげていこう。そして「新生JR東労組運動宣言」に基づき仲間寄り添った青年部運動を推し進め、この難局を切り拓こう。

以上宣言する

2020年8月25日
東日本旅客鉄道労働組合青年部
第36回定期委員会

